

The background features abstract, overlapping geometric shapes in various shades of blue, ranging from light sky blue to deep navy blue. These shapes are primarily located on the left and right sides of the frame, creating a modern, dynamic feel. The central area is a clean, white space where the text is placed.

活気あふれる福島県へ！

～未来を担う子どもたちのために～

《事業概要》



生まれ育った環境や受けた教育によって、子どもたちが夢や希望を諦めることなく、自由な発想で、意欲的に学習できる環境を整えたいという思いから起ち上げました。また、根本的な原因でもある都市圏との地域格差の解消を目指し、未来を担う子どもたちを地域全体で支えていく活動をしたいと考えております。

[福島県の現状・なぜ福島県なのか]

不登校児童生徒数の増加、家庭環境、難関大学進学率が低く微減傾向、学力が低い層(正答率40%未満)が多い、運動習慣の減退、少子高齢化、地域の付き合いの希薄化、教員の大量退職と志願者の減少...などの問題※1があります。

東日本大震災は日本国民として決して他人事ではありません。災害によって多くのものを失い、今もなお様々な問題を抱える福島県の未来をより明るいものにしたいとの思いから、福島県での活動をさせていただきます。



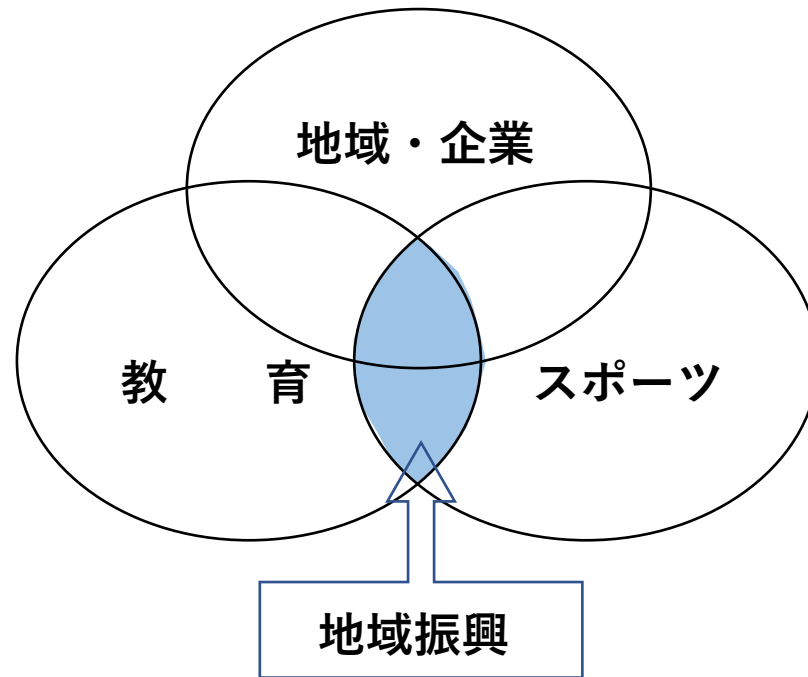
※1: 福島県教育委員会 頑張る学校応援プラン. 「福島県の教育の現状分析 (令和3年1月時点) - SWOT分析のバックデータ集 -」.
https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/life/534690_1442568_misc.pdf, (2022年10月14日閲覧).

《事業内容》

- ①未来を担う子供たちや高齢者の方々に、“スポーツ支援”を行います。
- ②未来を担う子どもたちに、“教育支援”を行います。
- ③“地域振興”にも力を注ぎます。

観光客をよべるイベントの開催。

→例えば、七夕といえば仙台、雪祭りといえば札幌というふうに、
イベントで都市が認知されるような、そんな継続的なイベントを開催したい。



地域・企業が元気になり、子供たちの教育レベル・スポーツレベルも向上します。
スポーツが盛んになり、教育のレベルも上がり、それにより県の未来も明るいものになります！



①「スポーツ支援」

スポーツブランド「ミズノ」様との共同支援

〔学生対象〕

- ・ミズノ所属のトップアスリートや指導プログラム認定のアスリートが各学校に出向き、部活指導を行う。
いわき市内の中学校2校と磐城高等学校の計3校で特定の部活動を対象とし、アスリートが出向き指導を行う、第1回目のスポーツイベントを開催します。
(2022年11月下旬～12月予定)



- ・「ミズノ杯〇〇大会」といった各スポーツの大会開催。
- ・ユニフォーム・シューズ・ラケットなどスポーツ用品の提供。
対象は、イベントを行う学校の部活動や、公募とします。

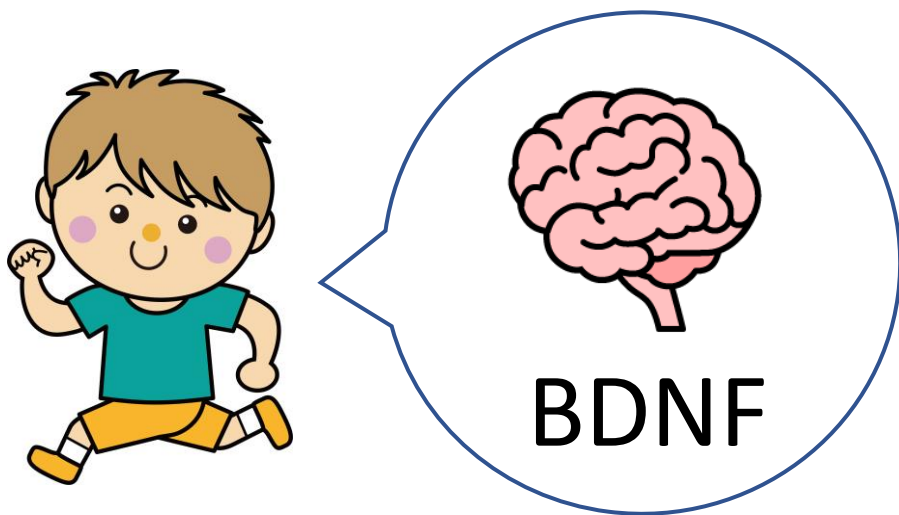


〔地域住民・ご高齢者対象〕

- ・地域住民のご高齢者の方々を対象としたスポーツイベントの開催。
毎月違ったプログラムで、無理なく楽しみながら健康意識を高めます。
地域の方々同士のふれ合いの場にもなり、希薄化や孤独化を防ぎ、心の健康を保つ。

《なぜ“スポーツ”なのか》

- ・運動をすると、神経科学の観点から以下のような効果が得られる。
 - ①ストレス・メンタルの安定など、人間の生活全般に良い影響があらわれる。
 - ②集中力・記憶力が向上する。



- ・運動をすると、脳で**BDNF**(脳由来神経栄養因子)という物質がつくられて脳が育てられる。
- ・BDNFは脳細胞の栄養になる物質なので、BDNFが増えることで脳細胞が増えたり、脳細胞の機能を維持したり成長させる。
→学習能力・記憶力・高度な思考...を高められる。

つまり...学力を高めたい人や、若々しさ・美しさ・健康を保ちたい人ほど
運動をすることが重要である！



②「教育支援」～福島県からの東京大学合格率やす～



日本の最高学府として在り続ける東京大学の合格率は、毎年あらゆる媒体で話題となり、教育・学力において分かりやすい指標です。



大都市圏や、特定の進学校からの合格者が多いのが現状です。
関東出身合格者の割合はかつては全体の5割程度でしたが、近年は6割を上回りました。※1

その方法として、

- ①東京大学の現役大学生からの学習指導により、子どもたちの学習意欲を高めます。
- ②合格者が増えることで、“東京大学合格率”のキーワードで全国的に話題となり、県の知名度が上がります。
- ③中学1～高校3年生を対象とした教育支援を2023年4月から行い(予定)、3年後に福島県からの合格者数10人UPを目標に、毎年合格者数を増やしていきます。(※²福島県からの東京大学合格者数13名(2022年) / ※³東京大学・京都大学合格率 都道府県別ランキング 福島県45位(2017年))

「具体的な活動内容」

- ・ 中学1～高校3年生を対象に、当NPOが運営するNPO〇〇塾(検討中)での東京大学の現役大学生を派遣やWEB上での学習指導。
また、県内の全ての学生が、いつでも閲覧できるWEB上でのオンライン授業の配信。
年に数回、県内進学校・成績上位者や希望者向けの無料スクーリングの開催。
- ・ 2024年以降は、都内での生活支援・住居支援、さらには経団連各社のご協力により、アルバイト・インターン支援(予定)。

※1:河合塾.「東京大学 出身地域別 合格者数の推移」. <https://todai.kawai-juku.ac.jp/exam/area.php> ,(2022年10月12日閲覧).

SAPIX YOZEMI GROUP 東大研究室.「2022東大入試状況「一般選抜 出身地別割合」」. <https://juken.y-sapix.com/articles/24597.html> ,(2022年10月16日閲覧)

※2:福島民友新聞.「東大、福島県内の高校から13人合格 一般選抜、京大は4人」. <https://www.47news.jp/7513229.html> ,(2022年10月15日閲覧)

※3:週刊朝日.「地域差30倍、東大・京大合格者が出やすい県は？」. <https://dot.asahi.com/wa/2018031100007.html> ,(2022年10月12日閲覧)



③ 「地域振興」



[地方振興とは...]

- ・ 過疎化が進む地方の人口流出をとめる。
- ・ 福島県で育った若者が帰ってきたいと思えるふるさとづくり。
- ・ 県外の若者が移住したいと思える環境づくり。
- ・ 福島県の知名度向上、活気づけるためにも、観光客を継続的によべるイベントの開催。
- ・ 学習指導プログラムの充実や、部活動の強豪校があるなど、たくさんの学生が入りたいと思える学校づくり。
- ・ 雇用の拡大。
- ・ 若者も集まり、活気のある街づくり。
- ・ 特産物や工芸品、観光地など、地元の魅力を発掘して広める...等。

[主な事業内容]

- ・ 当NPOは、賛同をいただける地元企業のみなさまと共に、地域の未来を担う子供たちのため、教育・スポーツレベルの向上を目指します。
- ・ 地域振興のためのイベントの開催
例えば、福島版ルミナリエ、クリスマスマーケット、大花火大会など。
- ・ 地域の方々の健康促進
地域住民のご高齢者の方々を対象とした年2回のスポーツイベントの開催。

《県全体にもたらす影響》



- ・ 県内の中学校、高等学校のスポーツ強化によってもたらされる、県の知名度向上によるメリットは計り知れません。
- ・ 県内の各高等学校の進学率、特に各地域の進学校の上位大学への進学率の向上は、将来的に大きな意味をもたらすことは確実です。
- ・ 未来を担う子どもたちのために、県内の多くの企業のみならず、団体からの支援を賜りたいと期待しております。





《福島県の明るい未来のために》



県商工会議所、県支部ライオンズクラブ、県支部ロータリークラブ、県医師会、県青年会議所、通信インフラ企業、県エネルギー企業、県交通インフラ企業、スーパーマーケットへの納入食品日用雑貨メーカー、Jリーグクラブ支援企業他。

上記、みなさまにお力をお借りしたいです。

ともに福島県を盛り上げていただけませんか？



高齢者が住みやすい、子育てしやすい、そんな街づくりを...！！！！